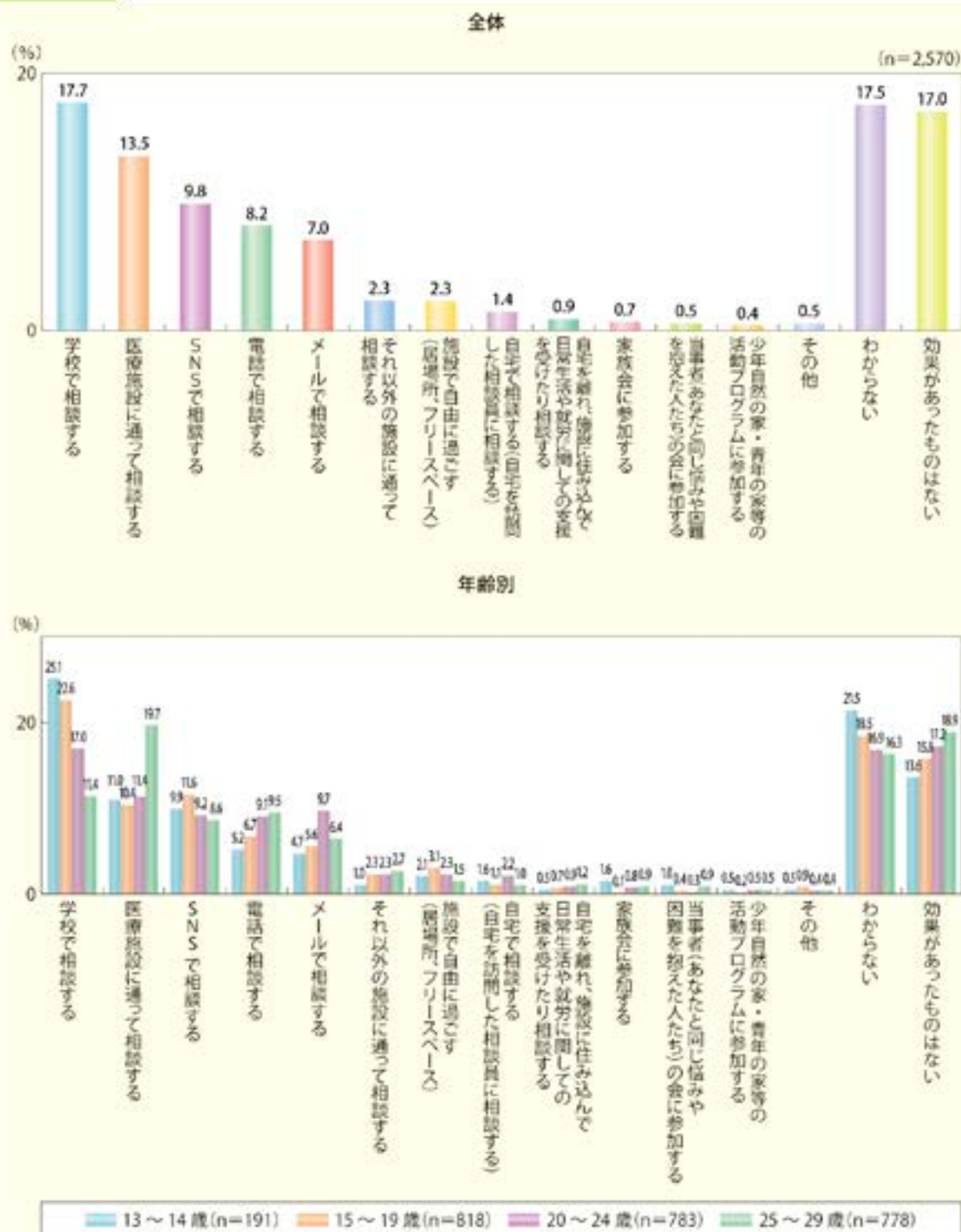


- 受けたことのある支援の形態で最も役に立ったと思うものを尋ねたところ、全体で最も高いものは、「学校で相談する」(17.7%)であり、次いで高いものは、順に「医療施設に通って相談する」(13.5%)、「SNSで相談する」(9.8%)、「電話で相談する」(8.2%)という結果となった。一方、「効果があつたものはない」との回答も全体では17.0%を占める結果となった。
- 年齢区分別でみると、「学校で相談する」は年代が若いほど高くなっており、13～14歳で25.1%、15～19歳で22.6%という結果となった。また、25～29歳では、「医療機関に通って相談する」(19.7%)が最も高い結果となった。(図表11)

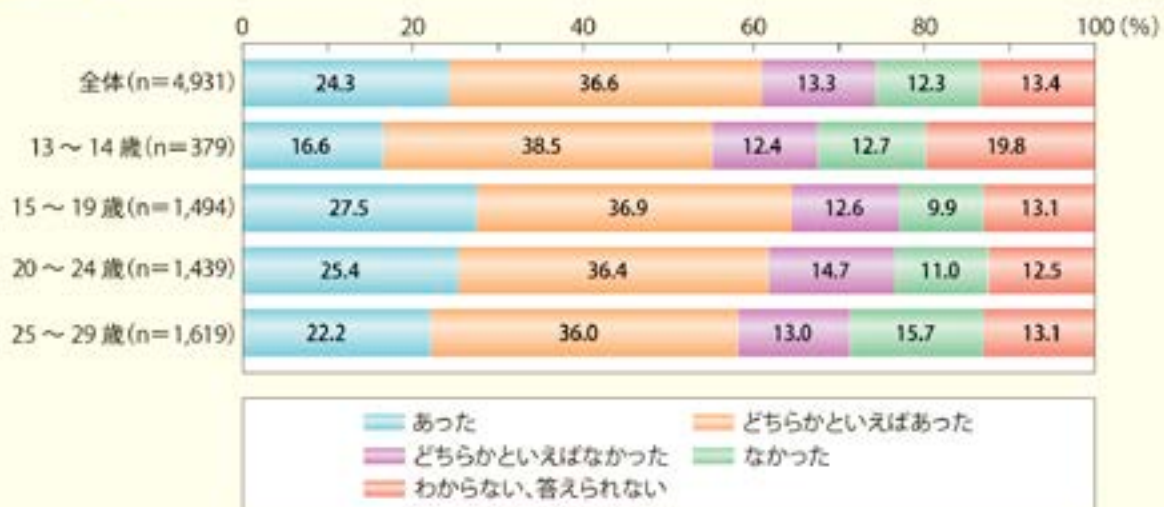
図表 11 最も役に立ったと思う支援の形態



※困難経験が「あった」又は「どちらかといえばあった」と回答した者のうち、今までに上記の形態で支援を受けた経験がある者のみ回答

- 困難経験が「あった」又は「どちらかといえばあった」と回答した子供・若者に対して、「今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができていなかった状態が改善した経験（以下「困難改善経験」という。）があったと思いますか」と尋ねた。
- この質問に対する回答を見ると、「あった」又は「どちらかといえばあった」と回答した者の割合は60.9%であり、「なかった」又は「どちらかといえばなかった」と回答した者の割合の25.7%より高い結果となった。（図表12）

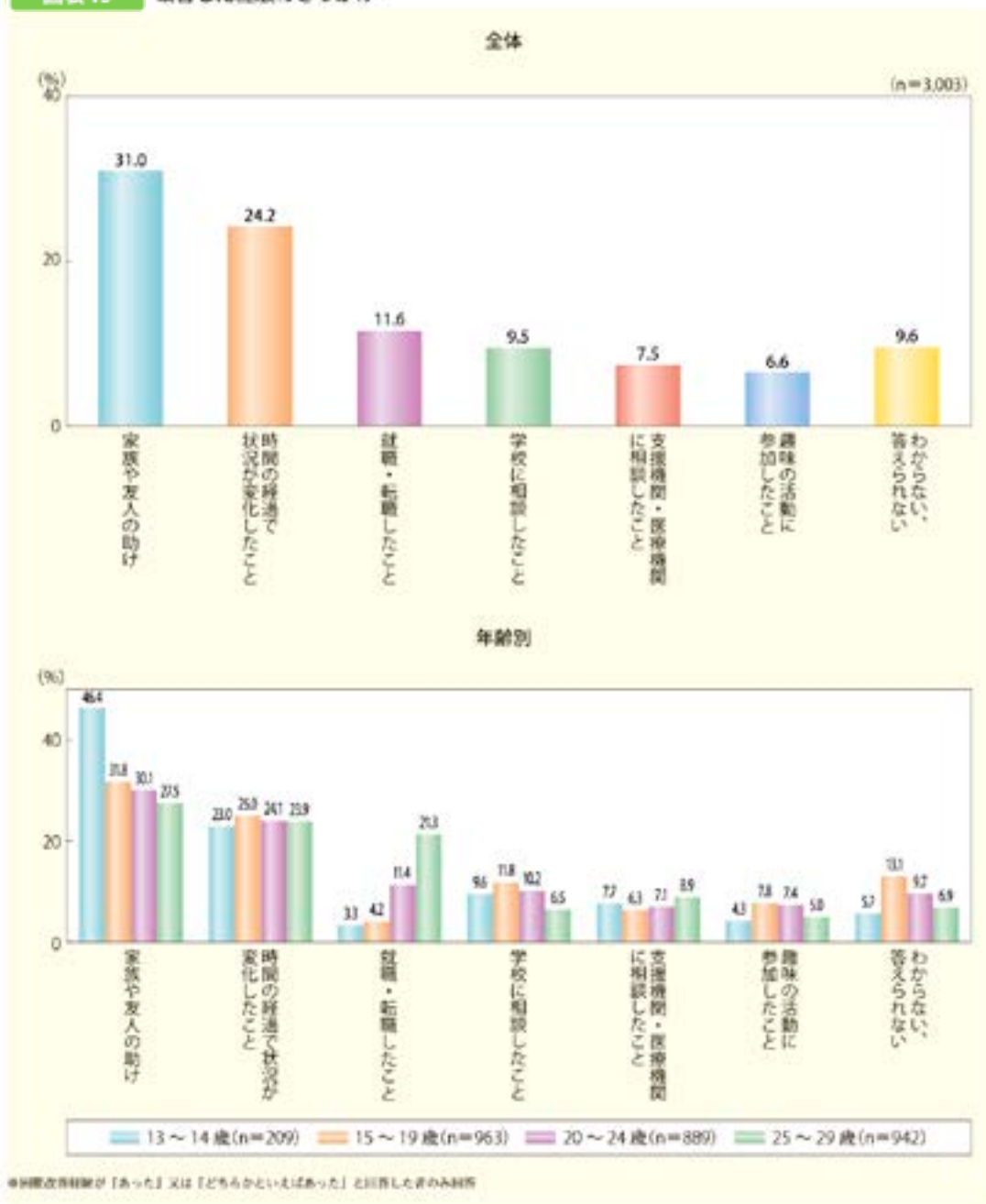
図表12 困難改善経験について



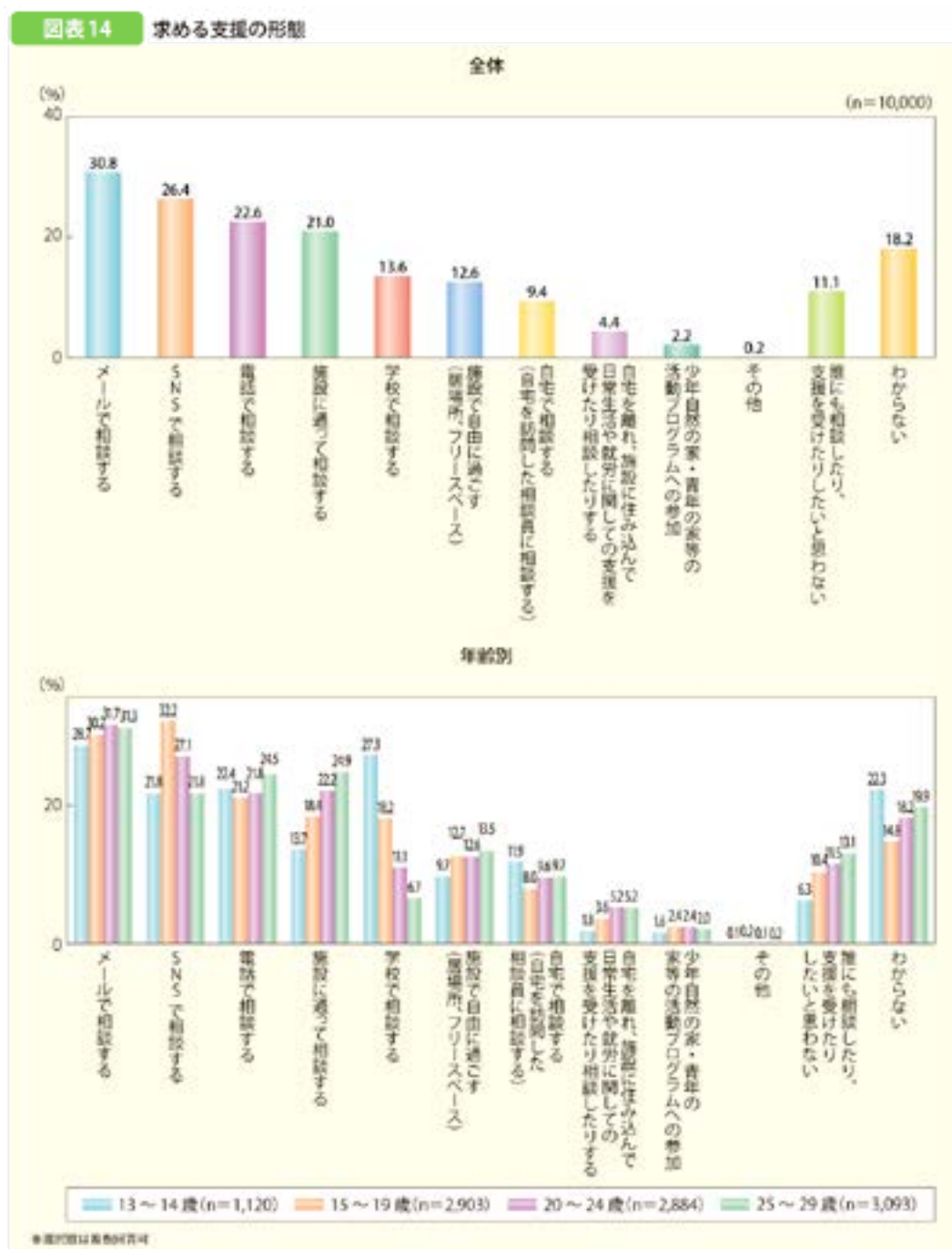
※困難経験が「あった」又は「どちらかといえばあった」と回答した者のみ回答

- 困難改善経験が「あった」又は「どちらかといえばあった」と回答した者に対して、「どのような改善した経験はどのようなことがきっかけだったと思いますか」と尋ねた。
- この質問に対する回答を見ると、全体で最も高いものは、「家族や友人の助け」(31.0%)であり、次いで高いものは、順に「時間の経過で状況が変化したこと」(24.2%)、「就職・転職したこと」(11.6%)、「学校に相談したこと」(9.5%)という結果となった。
- 年齢区分別でみると、13～14歳は「家族や友人の助け」(46.4%)が、全体と比べ15ポイント以上高い結果となった。(図表13)

図表13 改善した経験のきっかけ

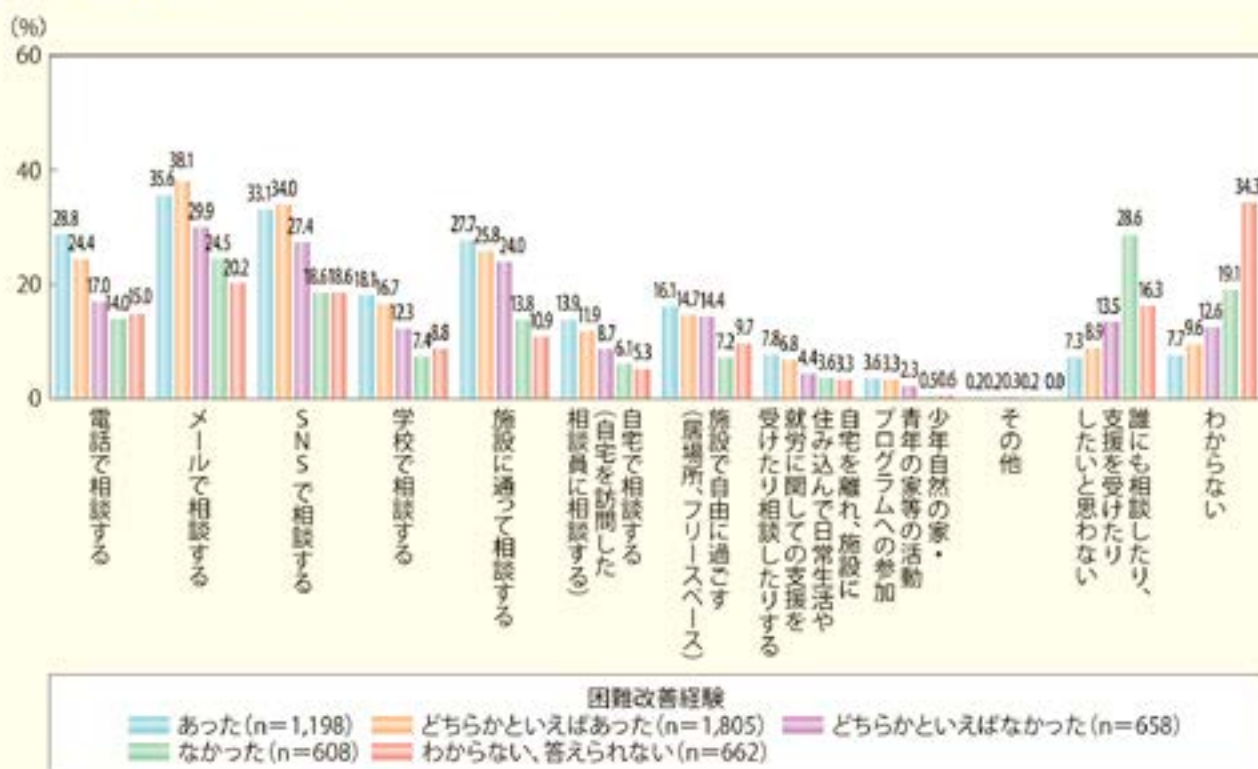


- 調査対象者全員に対して尋ねた「公的な支援機関や専門家から支援を受ける場合に、どのような形で支援を受けたいと思いますか」という質問への回答を見ると、全体で最も高いものは、「メールで相談する」(30.8%)であり、次いで高いものは、順に「SNSで相談する」(26.4%)、「電話で相談する」(22.6%)、「施設に通って相談する」(21.0%)という結果となった。
- 年齢区分別でみると、15～19歳においては、「メールで相談する」(30.2%)よりも、「SNSで相談する」(32.2%)の方が割合が高い結果となった。(図表14)



- 困難経験が「あった」又は「どちらかといえばあった」と回答した子供・若者について、公的な支援機関や専門家から支援を受ける場合に求める支援の形態と、困難改善経験との関係を見てみる。
- 困難改善経験が「あった」又は「どちらかといえばあった」と回答した者は、「なかった」又は「どちらかといえばなかった」と回答した者と比べて、支援を求めている割合が高い結果となった。
- 困難改善経験が「なかった」と回答した者については、「誰にも相談したり、支援を受けたりしたいと思わない」(28.6%)が最も高く、次いで高いものは、順に「メールで相談する」(24.5%)、「わからない」(19.1%)、「SNSで相談する」(18.6%)という結果となった。(図表15)

図表15 求める支援の形態と困難改善経験について



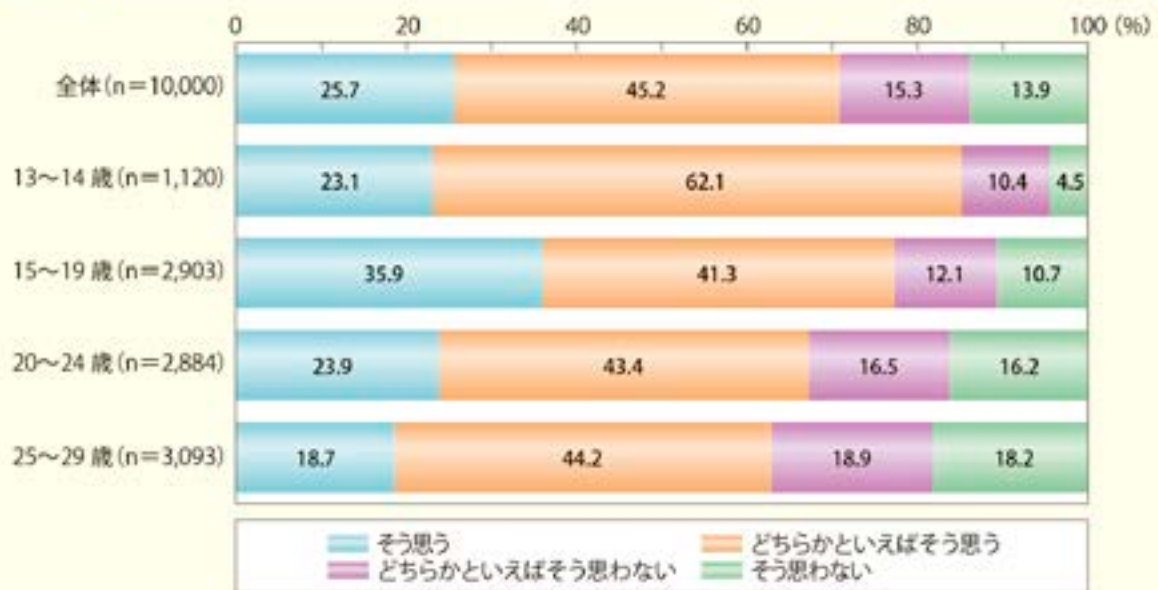
- 以上のように、公的な支援機関や専門家から受ける支援の形態については、全体として様々なニーズを子供・若者が持っていることがわかる結果となったが、他の項目と比べて、メールやSNSでの相談を求める者の割合が高い結果となった。年齢別に見ると15～19歳については、SNSでの相談を求めている者の割合が最も高い結果となった。
- 一方で、困難経験を抱えたまま、誰にも相談したり、支援を受けたりしたいと思わないという子供・若者も一定割合いる結果となった。

3. 社会参加について

○「社会のために役立つことをしたい」と思いますか」という質問に対する回答を見ると、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合が70.8%という結果となった。

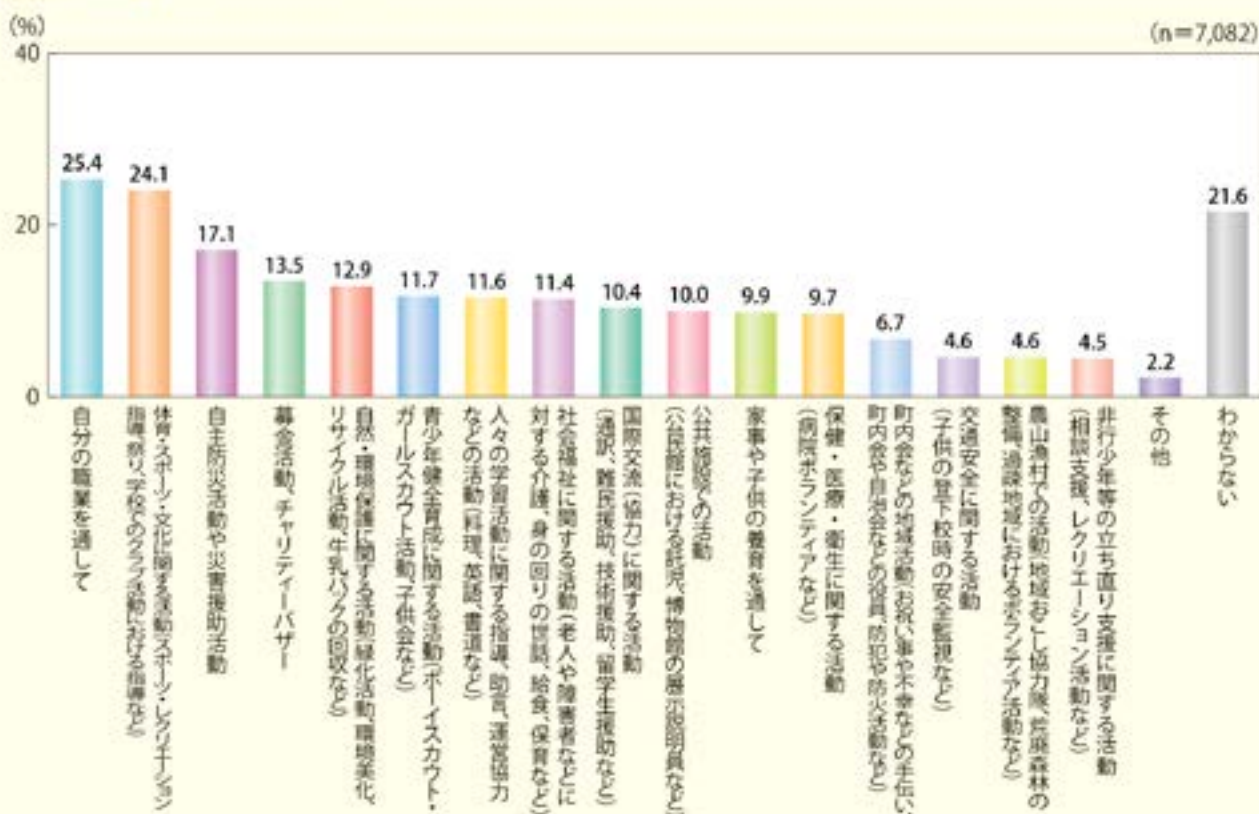
○年齢区分別でみると、「そう思わない」又は「どちらかといえばそう思わない」は、年代が上がるにつれて、高くなるという結果となった。(図表 16)

図表 16 社会のために役立つことをしたい



- 「社会のために役立つことをしたい」と思いますか」という質問について、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した者に対して「具体的に何を通じて社会のために役立ちたいと考えていますか」と尋ねた。
- この質問に対する回答を見ると、「自分の職業を通して」(25.4%)が最も高く、次いで高いものは、順に、「体育・スポーツ・文化に関する活動」(24.1%)、「わからない」(21.6%)、「自主防災活動や災害援助活動」(17.1%)という結果となった。(図表 17)

図表 17 社会のために役立ちたい（具体的に）

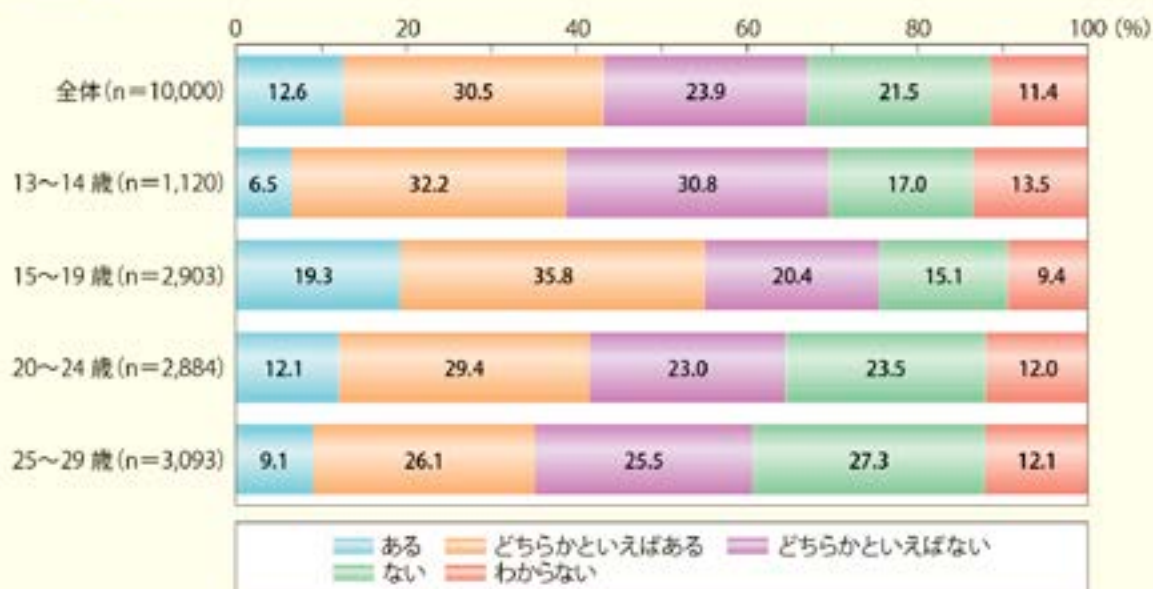


※「社会のために役立つことをしたい」と思いますかという質問について、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した者のみ回答
※選択肢は複数回答可

○「あなたはボランティア活動に興味がありますか」という質問に対する回答を見ると、「ある」又は「どちらかといえばある」と回答した者の割合が43.2%、「ない」又は「どちらかといえばない」と回答した者の割合が45.4%という結果となった。

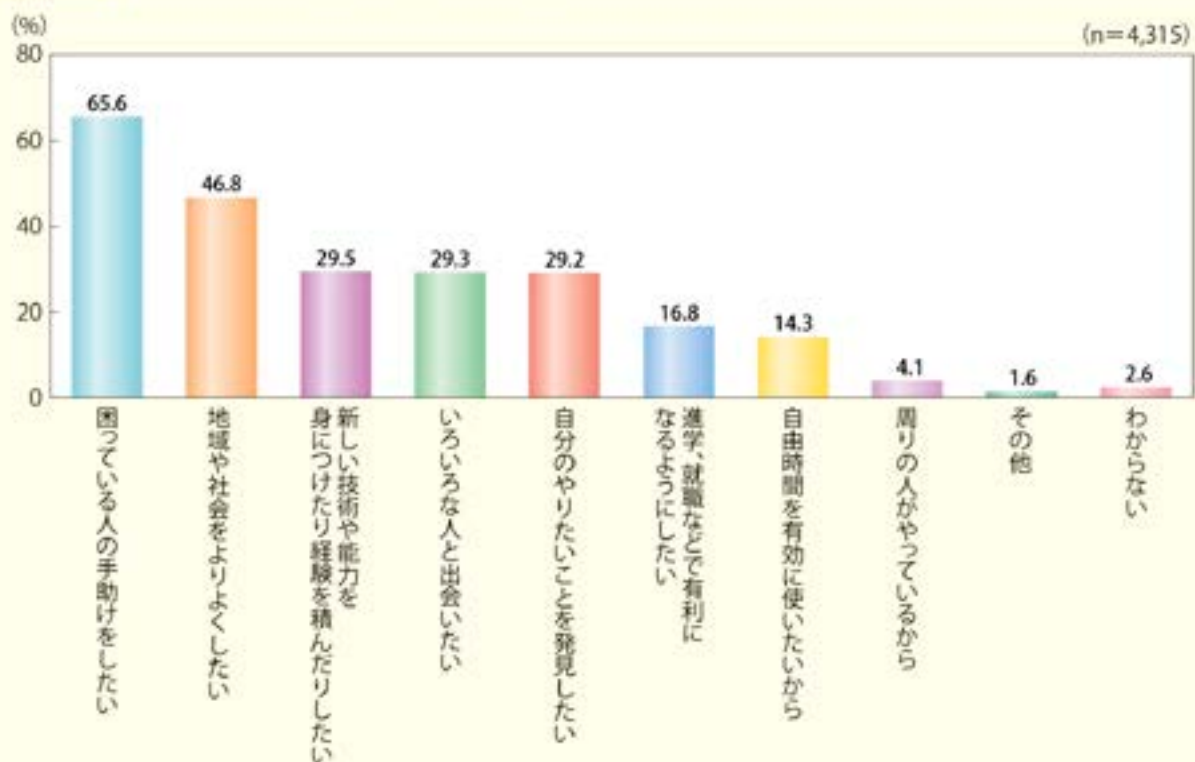
○年齢区分別でみると、「ある」又は「どちらかといえばある」と回答した者の割合は15～19歳（55.1%）が、全体と比べ10ポイント以上高い結果となった一方で、「ない」又は「どちらかといえばない」と回答した者の割合は25～29歳（52.8%）が、他の年代と比べ最も高い結果となった。（図表18）

図表18 ボランティア活動に対する興味



- 「あなたはボランティア活動に興味がありますか」という質問について、「ある」又は「どちらかといえばある」と回答した者に対して「ボランティア活動に興味がある」のは、どのような気持ちからですか」と尋ねた。
- この質問への回答を見ると、「困っている人の手助けをしたい」(65.6%)が最も高く、次いで高いものは、順に、「地域や社会をよりよくしたい」(46.8%)、「新しい技術や能力を身につけたり経験を積んだりしたい」(29.5%)、「いろいろな人と出会いたい」(29.3%)、「自分のやりたいことを発見したい」(29.2%)、「進学、就職などで有利になるようにしたい」(16.8%)、「自由時間を有効に使いたいから」(14.3%)、「周りの人がやっているから」(4.1%)、「その他」(1.6%)、「わからない」(2.6%)という結果となった。(図表 19)

図表 19 ボランティア活動に興味がある理由



※「あなたはボランティア活動に興味がありますか」という質問について、「ある」又は「どちらかといえばある」と回答した者のみ回答
※選択肢は複数回答可

○困難経験及び困難改善経験と社会参加との関係性について、

①困難経験がなかった者¹

②困難経験があり、困難改善経験があった者²

③困難経験があり、困難改善経験がなかった者³

の3グループに分けて、「社会のために役立つことをしたい」と思いますか」という質問に対する各グループの回答を見る。

○「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した割合について、

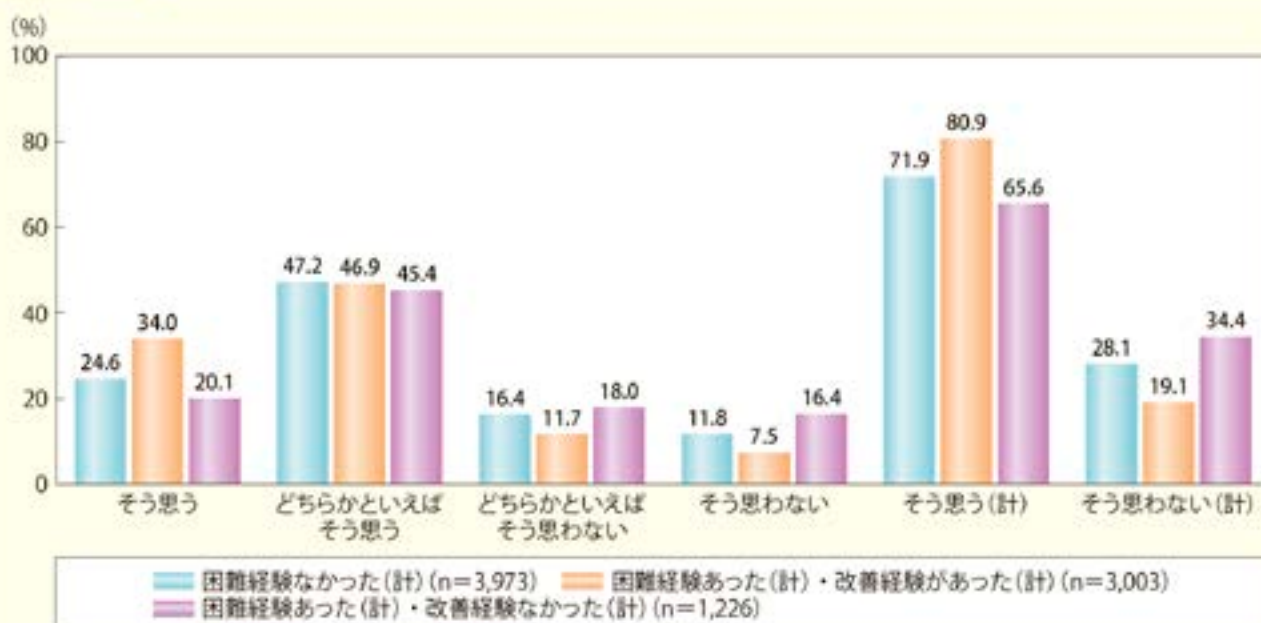
①の困難経験がなかった者が71.9%

②の困難改善経験のあった者が80.9%

③の困難改善経験のなかった者が65.6%

となり、②の困難改善経験のあった者のグループが他のグループに比べて、社会のために役立つことをしたいと回答している割合が高い結果となった。(図表20)

図表20 社会貢献への意識と困難経験等について



¹ 困難経験が「なかった」又は「どちらかといえばなかった」と回答した者

² 困難経験が「あった」又は「どちらかといえばあった」と回答した者のうち、困難改善経験が「あった」又は「どちらかといえばあった」と回答した者

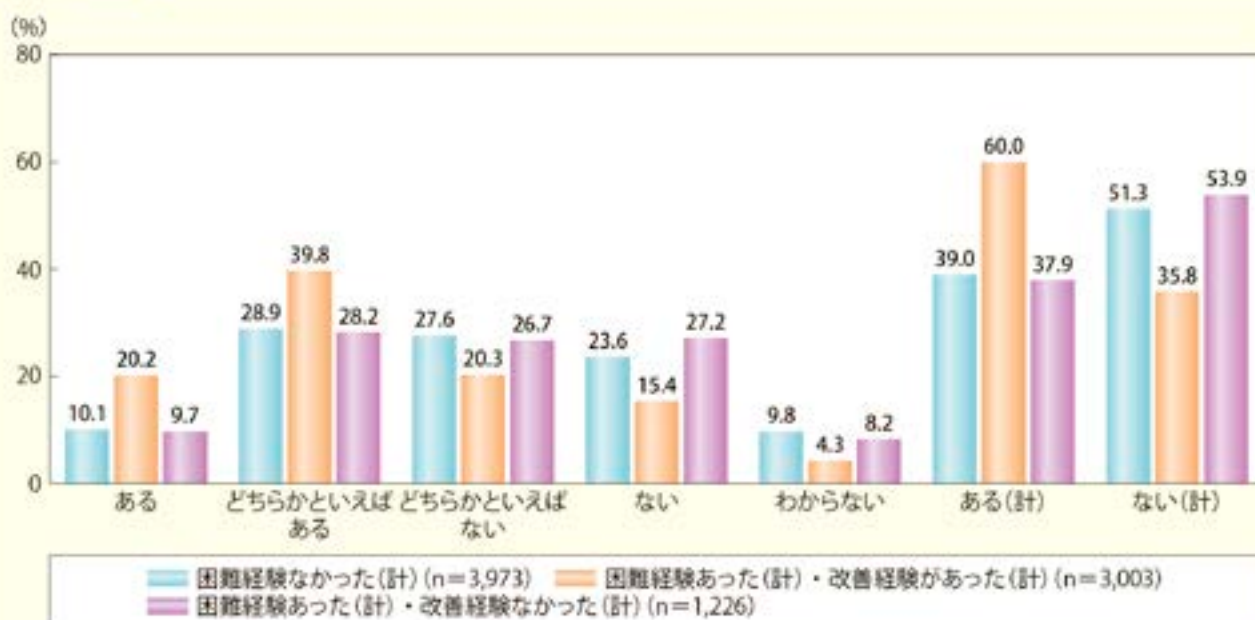
³ 困難経験が「あった」又は「どちらかといえばあった」と回答した者のうち、困難改善経験が「なかった」又は「どちらかといえばなかった」と回答した者

○「あなたはボランティア活動に興味がありますか」という質問に対する前述の3グループの回答を見ると、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した割合について、

- ①の困難経験がなかった者が 39.0%
- ②の困難改善経験のあった者が 60.0%
- ③の困難改善経験のなかった者が 37.9%

となり、困難改善経験のあった者のグループが他のグループに比べて、ボランティア活動への興味があると回答している割合が高い結果となった。(図表 21)

図表 21 ボランティア活動への興味と困難経験等について



以上のように、「社会のために役立つことをしたい」及び「ボランティア活動に興味がある」との質問に対する回答については、②の困難経験があり、困難改善経験があった者のグループが、他のグループに比べて、いずれも顕著に高く、社会参加への意識が高い傾向がうかがわれる結果となった。